

平成30年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取養護学校

学校長 涌嶋 祥雄

評 価 日	平成31年2月22日（金）	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況について ○保護者アンケート「自立と社会参加の項目ではC（あまり思わない）が例年多くなっている。保護者はどのような情報が欲しいのかニーズの把握が必要。 ○「自立と社会参加」というのは大きなテーマ。生活介護や一般就労、B型など、卒後の自己決定に向けて取り組んでほしい。 ○重度重複障がいの子どもたちにとっては、医療的ケアが必要な場合が多く将来的に行けないところも多い。受け皿がないという点で不十分となっている。 ○情報教育部の評価が昨年度Bであったが、本年度Cとなっているその理由は何かあるのか。 (2) 説明・公表について ○評価の具体項目がこの3年ほど小、中学部は変更されていない。前年の評価、反省を受けて、より具体性を持った項目にした方が、職員も意識しやすい。 ○「単一障がい」と「重複障がい」という視点でくくれる部分は、全学部がそろえた方が見やすい。 ○いじめについて、基本方針が作成されているが、QOLの向上あたりにも評価の具体項目として入れた方がよい。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ○特になし 3. 取組改善のための提言 ○PT、OT等の支援について、本校は専属がいないが、いろいろな部分（いすの調整など）で活用していく方がよい。 ○福祉に対しての資金については厳しくなっている。地域共生型サービスという方向に進んできている。重度の方向けのグループホームも出てきている。 ○あるものを継続していくため、リスト化、見える化をし		○各評価項目の目標に対する評価としては、おおむね「B」以上の評価となった。取組の結果が一定の成果としてあらわれている。 ○評価が「C」以下の目標については、新たな取り組み等もあり、委員の指摘を踏まえて来年度更なる取組を進めていきたい。 ○「評価の具体項目」については、本年度の評価、反省と来年度の重点目標を踏まえ、より具体性のあるわかりやすいものを検討していく。 ○学校裁量予算を活用した「とりようわくわくプロジェクト」も本年度2年目となり、物的環境・人的環境を整え、本校の特色を生かした取組を進めている。 ○保護者のニーズに応じ、必要な情報提供など迅速に対応していきたい。 ○委員からいただいた提言を参考に、医療や福祉、就労など各関係

て、どう活用するか、どう実現するのかという視点で取り組んでほしい。 ○中央病院の新築に伴う変化に対して、保護者も不安に感じていると思うので、適切な時期に適切な情報提供をしてほしい。 ○保護者の方々からいろいろなことを聞くが、先生方は子どもたちのことを考えてがんばってくれていると思う。	機関と今まで以上に連携をとりながら課題の解決や目標の実現に向け取り組んでいきたい。
---	--